

建築学コース 授業科目関連表 (2025年度以降入学者)

●各科目の関連を詳細に知りたい場合には、個々の科目の説明を参照して下さい。  
●卒業要件、資格に関係する科目については、教育課程の項を参照して下さい。

(括弧付き)は他区分科目

区分	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
共通 教育 科目	大学基礎科目  英語 I 大学基礎 英語 I コミュニケーション データサイエンス I スポーツ健康科学A	キャリア教育入門 英語 I 大学基礎 英語 I コミュニケーション データサイエンス II						
	教養基礎科目 (・副専攻科目)  英語 I TOEIC  歴史・文化分野 環境・科学分野 健康・医療・福祉分野 教育・公共分野 社会・経済分野 国際・外国語分野	スポーツ健康科学B						
	教養基礎科目として開講されている授業について、同一分野の授業を10 単位以上修得し申請することで、当該分野が副専攻として認められる							
	専攻基礎科目  基礎微分積分学 I  基礎物理学 I	基礎線形代数学 I	基礎数理統計学					
専門 教育 科目	共通分野  安全教育・工学倫理	工業数学	先端技術基礎			建築家職能論 建築家職能論(英語/英語(英語))	卒業研究	卒業研究
					インターンシップ・II (建築工学教育科目)	インターンシップ・II (建築工学教育科目)	建築企画設計 建築英語	
	計画系分野  建築概論  建築図学	建築計画I  建築図学 造形実習I	建築計画II  建築設計製図I 造形実習II	ファシリティマネジメント 都市・地域計画 西洋・近代建築史 建築設計製図II	建築意匠 景観設計 日本建築史 建築設計製図III	建築構法 建築行政 建築設計製図IV		
	環境・設備系分野  環境・設備系分野		建築環境工学I 建築都市環境工学演習	建築環境工学II 建築環境工学III 建築都市環境工学演習	建築設備I 都市環境	建築設備II 建築設備設計法		
	構造系分野  建築力学I 建築力学演習I	建築力学II 建築力学演習II	建築力学III 建築構造材料	鉄骨構造 建築構造材料	鉄筋コンクリート構造 木質構造 構造材料実験法 建築生産I 建築生産III	建築基礎構造 建築生産II	建築構造設計演習	
	地域防災系分野  地域防災系分野				防災都市工学 防災まちづくり工学 防災安全工学			
		総合工学教育科目 基幹教育科目(必修科目) 基盤教育科目(基礎選択科目) 応用教育科目(応用選択科目)						

# 建築学コース(1年次よりコース決定者) 授業科目関連表(2019年度以降入学者)

- 各科目の関連を詳細に知りたい場合には、個々の科目の説明を参照して下さい。
- 卒業要件、資格に関係する科目については、教育課程の項を参照して下さい。

斜体は選択科目、下線付きは自由科目、(括弧付き)は他区分科目

区分			1 年		2 年		3 年		4 年	
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
教養基盤科目	アクティブ・ラーニング領域		スタートアップPBLセミナー	教養セミナー						
		外国語教育領域	英語 I 大学基礎 英語 I コミュニケーション 英語 I TOEIC	英語 I 大学基礎 英語 I コミュニケーション	選択科目: 教養教育履修案内を参照のこと				(建築英語)	
	異文化理解領域		異文化理解 I 基礎a 異文化理解 I 演習a	異文化理解 I 基礎b 異文化理解 I 演習b	選択科目: 教養教育履修案内を参照のこと					
		健康科学領域	スポーツ健康科学a	スポーツ健康科学b	選択科目: 教養教育履修案内を参照のこと					
	キャリア教育領域		選択科目: 教養教育履修案内を参照のこと							
		基礎教育領域	プログラミング言語 I 基礎微積分学 I  基礎物理学 I	基礎線形代数学 I (工業数学)	基礎数理統計学	選択科目: 教養教育履修案内を参照のこと				
	教養統合科目	地域理解・日本理解	選択科目: 教養教育履修案内を参照のこと							
		国際理解・現代社会理解								
		現代科学理解								
専門教育科目	共通分野		安全教育・工学倫理	工業数学	先端技術基礎			建築家職能論 建築学実習	卒業研究	卒業研究
							インターンシップⅠ・Ⅱ	インターンシップⅡ		
	計画系分野		建築概論	建築計画Ⅰ	建築計画Ⅱ	ファシリティマネジメント 都市・地域計画	建築意匠 景観設計	建築構法		
						西洋・近代建築史	日本建築史	建築行政		
			建築図学	建築図学	建築設計製図Ⅰ	建築設計製図Ⅱ	建築設計製図Ⅲ	建築設計製図Ⅳ		
				造形実習Ⅰ	造形実習Ⅱ					
	環境・設備系分野				建築環境工学Ⅰ	建築環境工学Ⅱ 建築環境工学Ⅲ	建築設備Ⅰ 都市環境	建築設備Ⅱ 建築設備設計法		
					建築都市環境工学演習	建築都市環境工学演習				
	構造系分野		建築力学Ⅰ	建築力学Ⅱ	建築力学Ⅲ	鉄骨構造	鉄筋コンクリート構造		建築構造設計演習	
			建築力学演習Ⅰ	建築力学演習Ⅱ			木質構造	建築基礎構造		
					建築構造材料		構造材料実験法			
							建築生産Ⅰ 建築生産Ⅲ	建築生産Ⅱ		
	地域防災系分野						防災都市工学	防災まちづくり工学 防災安全工学		

凡例

コアカリキュラム

選択科目

建築学実習、インターンシップⅠ、インターンシップⅡのうちいずれか1科目を習得しなければならない。

工学部総合工学科建築学コース

科目区分/領域	到達目標	ディプロマ・ポリシー（DP）との関連				
		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
共通領域	学生は、建築学に関わる基礎自然科学について理解し説明できる。	○	◎			
	学生は、社会における建築物の役割や建築設計の任務を理解できる。		◎			○
	学生は、建築・都市の現状と発展における国際的・文化的多様性を理解できる。			○	◎	
	学生は、以下各領域の知識を総合して、建築物の設計を構想し、説明できる。			◎		◎
計画系領域	学生は、建築・都市計画に関する標準的知識および用語について説明できる。	◎	○		○	
	学生は、計画的知識を建築物の設計に論理的に適用できる。			◎		
	学生は、建築設計法を理解し設計の構想を図的・言語的に表現・説明できる。			◎		◎
環境設備系領域	学生は、建築環境工学に関する標準的知識および用語について説明できる。	◎	○		○	
	学生は、建築環境に関する現象を数理的に説明できる。	◎		○		
	学生は、環境学的知識を設計・研究活動において論理的に応用できる。			◎		○
構造系領域	学生は、建築構造・材料・生産工学に関する標準的知識・用語について説明できる。	◎	○		○	
	学生は、建築構造・材料・生産工学に関する現象を数理的に説明できる。	◎		○		
	学生は、建築構造・材料・生産工学の知識を設計・研究活動に論理的に応用できる。			◎		○
地域防災系領域	学生は、各種災害が建築および地域に及ぼす被害現象とその要因を理解し説明できる。	◎	○			
	学生は、各種災害が建築および地域に及ぼす被害を防止する技術を理解し説明できる。		○	◎		○

ディプロマ・ポリシー（DP）の説明

DP1：建築学に関する専門知識を身につけている。

DP2：幅広い教養と倫理観を身につけている。

DP3：社会のニーズや課題を的確に把握し、論理的な思考を展開して建築設計する能力を身につけている。

DP4：国際社会で活躍する人材としてのコミュニケーション力を身につけている。

DP5：プロジェクトを遂行するための協調性やプレゼンテーション能力を身につけている。